

	第2回	PBL 活動の内容	-	対面
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバからプロジェクトが構成される。本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメンバからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。社会人学生が多数を占める本学では、構成メンバの年齢・職業・職位・経験等は様々で、20 代前半の社会人経験の無い学生、30 代の適度に経験を積んだ技術者、50 代の一流企業の部長級というメンバ構成等、通常の大学院では珍しいメンバ構成が実現することも多い。各 PBL は 3 名の教員が指導にあたる。 通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学 PBL では、メンバ及び指導教員と相談し、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。 1Q 及び 2Q の期間（10 月から 2 月）で 15 週間、週に 3 回（9 時間以上）の PBL メンバとの協働作業等の活動、教員報告等を行う。 月曜日に各自の活動等を週報（週間活動報告書）として提出する。 3Q と 4Q の各終了時に所定の SA（Self-Assessment）を提出する。 4Q の最後に開催される PBL プロジェクト成果発表会で、活動の成果を発表する。 	-	対面
	第4回		-	対面
	第5回		-	対面
	第6回		-	対面
	第7回		-	対面
	第8回		-	対面
	第9回		-	対面
	第10回		-	対面
	第11回		-	対面
	第12回		-	対面
	第13回		-	対面
	第14回		-	対面
	第15回		-	対面
	試験		PBL プロジェクト成果発表会 PBL プロジェクト活動の成果を発表する。	-
成績評価	<p>PBL 型科目の成績は、3 名以上の教員で評価点を付け、すべての専任教員が参加する成績判定会議で成績評価を決定する。評価点は、PBL の「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定された到達目標に達成度による評価（コンピテンシー獲得度）から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシーの評価である。</p> <p>前者 PBL 活動の評価は、活動状況の質と量、及び成果の質と量の 4 つの視点で評価項目を定め、100 点満点で評価する。また獲得したコンピテンシーの評価はあらかじめ設定された 7 つのコアコンピテンシーごとの 0~5 の評価基準に対し、基準の達成度により点数を付ける。活動の評価基準と重み、コンピテンシーの評価基準と重みは PBL ごとに設定する。</p> <p>評価基準と重み等、成績評価の詳細はプロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>			
教科書・教材	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
参考図書	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎		
	継続的学修と研究の能力	◎		
	チーム活動	◎		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	◎		
	ドキュメンテーション	◎		
	革新的概念・発想	◎		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	◎		
	問題解決	◎		
	リーダーシップ・マネジメント	◎		
	ファシリテーション・調整	◎		

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	1-2Q
科目群	事業アーキテクチャ特別演習 b	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 b1			教員名	専攻全教員
		(英文表記)	Advanced Exercises: Business Architectureb1				

概要	<p>1 年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは高度人材として活躍することは出来無い。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）が不可欠ある。2 年次では、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために、PBL 型 (Project Based Learning) のプロジェクト演習を行う。当科目の PBL 型演習では、事例研究・事業設計にしたがって、実際に事業の開発・検証等を行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>			
目的・狙い	<p>1 年次に修得した知識・スキルを応用して、実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得する。本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本学では、高度人材に必要なとされる業務遂行能力として、情報アーキテクチャ専攻では「7 つのコアコンピテンシー」、創造技術専攻では「5 つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として以下の「3 つのメタコンピテンシー」を設定している。</p> <p>修得できるコンピテンシー:</p> <p>(B1) コミュニケーション力 (B2) 継続的学修と研究の能力 (B3) チーム活動</p>			
前提知識 (履修条件)	<p>修了要件 40 単位として認められる単位を 22 単位以上取得し、うち基礎科目以外が 16 単位以上であること (10 月入学で、翌年の PBL の履修を希望する者は、修了要件 40 単位として認められる単位を 12 単位以上取得していること)。</p> <p>事業アーキテクトコースで指定される推奨科目を 10 単位以上取得していること。</p> <p>配属にあたって、希望する教員が指導するプロジェクトチームの希望者が定員を超える場合は、別途定める選抜順によって配属を決定する。プロジェクト配属ルール、履修条件の詳細は、別途定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>			
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>「PBL プロジェクト説明書」に記載されたプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4 以上の評価を受ける。これは、専門の知識・スキルを駆使し、問題発見・解決を牽引することができるレベルであり、下位レベルの育成ができるレベルである。上位到達レベル (概して 80 点~90 点)</p>			
	<p>最低到達目標</p> <p>「PBL プロジェクト説明書」に記載されたプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準でおおむね 2 以上の評価を受ける。これは、専門の知識・スキルを駆使し、問題発見・解決ができるレベルである。最低到達レベル (概して 60 点~70 点)</p>			
授業の形態	形態	実施	特徴・留意点	
	録画・対面混合授業	対面授業	—	
		講義 (双方向)	—	
		実習・演習 (個人)	—	
		実習・演習 (グループ)	○	学生自ら時間・場所を決め、活動する。
	サテライト開講授業	—		
その他	○	遠隔会議システムを利用した活動を行う場合がある。		
授業外の学習	<p>原則として、メンバとの協働作業等の授業活動を週に 9 時間以上、授業外活動を 9 時間以上、15 週間継続すること。授業外活動は、PBL 活動のために知識・スキルの事前学習、各メンバに割り当てられた課題の調査等を行う。</p>			
授業の内容	<p>以下に示す PBL 活動を行う。PBL 活動の内容詳細は「PBL プロジェクト説明書」でプロジェクトごとに示されている。</p>			

	回数	内容	サテライト開講	対面録画
授業の計画	第1回	プロジェクトキックオフ プロジェクトの内容、進行、各メンバーの役割等に関する議論を行う。	-	対面
	第2回	PBL 活動の内容	-	対面
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバーからプロジェクトが構成される。本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメンバーからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。社会人学生が多数を占める本学では、構成メンバーの年齢・職業・職位・経験等は様々で、20 代前半の社会人経験の無い学生、30 代の適度に経験を積んだ技術者、50 代の一流企業の部長級というメンバー構成等、通常の大学院では珍しいメンバー構成が実現することも多い。各 PBL は 3 名の教員が指導にあたる。 通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学 PBL では、メンバー及び指導教員と相談し、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。 1Q 及び 2Q の期間（4 月から 8 月）で 15 週間、週に 3 回（9 時間以上）の PBL メンバーとの協働作業等の活動、教員報告等を行う。 月曜日に各自の活動等を週報（週間活動報告書）として提出する。 1Q と 2Q の各終了時に所定の SA（Self-Assessment）を提出する。 各 Q の最後に開催される中間成果発表会で、活動の成果を発表する。 	-	対面
	第4回		-	対面
	第5回		-	対面
	第6回		-	対面
	第7回		-	対面
	第8回		-	対面
	第9回		-	対面
	第10回		-	対面
	第11回		-	対面
	第12回		-	対面
	第13回		-	対面
	第14回		-	対面
	第15回		-	対面
試験	中間発表会 1-2Q の活動の成果を発表する。		-	-
成績評価	<p>PBL 型科目の成績は、3 名以上の教員で評価点を付け、すべての専任教員が参加する成績判定会議で成績評価を決定する。評価点は、PBL の「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定された到達目標に達成度による評価（コンピテンシー獲得度）から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシーの評価である。</p> <p>前者 PBL 活動の評価は、活動状況の質と量、及び成果の質と量の 4 つの視点で評価項目を定め、100 点満点で評価する。また獲得したコンピテンシーの評価はあらかじめ設定された 7 つのコアコンピテンシーごとの 0~5 の評価基準に対し、基準の達成度により点数を付ける。活動の評価基準と重み、コンピテンシーの評価基準と重みは PBL ごとに設定する。</p> <p>評価基準と重み等、成績評価の詳細はプロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>			
教科書・教材	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
参考図書	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎		
	継続的学修と研究の能力	◎		
	チーム活動	◎		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	◎		
	ドキュメンテーション	◎		
	革新的概念・発想	◎		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	◎		
	問題解決	◎		
	リーダーシップ・マネジメント	◎		
	ファシリテーション・調整	◎		

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	3-4Q
科目群	事業アーキテクチャ特別演習 b	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 b2			教員名	専攻全教員
		(英文表記)	Advanced Exercises: Business Architecture b2				

概要	<p>1 年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは高度人材として活躍することは出来無い。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）が不可欠ある。2 年次では、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために、PBL 型 (Project Based Learning) のプロジェクト演習を行う。当科目の PBL 型演習では、事例研究・事業設計にしたがって、実際に事業の開発・検証等を行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>							
目的・狙い	<p>1 年次に修得した知識・スキルを応用して、実際の業務に近いプロジェクトを経験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得する。本学が提唱する「コンピテンシー」に類似する概念には、仕事、多くの職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力を意味する「社会人基礎力」、問題解決・交渉・モチベーションアップ等の非定型の対人的技能を意味する「ソフトスキル」等がある。本学では、高度人材に必要とされる業務遂行能力として、情報アーキテクチャ専攻では「7 つのコアコンピテンシー」、創造技術専攻では「5 つのコアコンピテンシー」、さらにこれらの源として以下の「3 つのメタコンピテンシー」を設定している。</p> <p>修得できるコンピテンシー： (B1) コミュニケーション力 (B2) 継続的学修と研究の能力 (B3) チーム活動</p>							
前提知識 (履修条件)	<p>「事業アーキテクチャ特別演習 b1」の単位を取得していること。</p> <p>配属にあたって、希望する教員が指導するプロジェクトチームの希望者が定員を超える場合は、別途定める選抜順によって配属を決定する。プロジェクト配属ルール、履修条件の詳細は、別途定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>							
到達目標	上位到達目標							
	<p>「PBL プロジェクト説明書」に記載されたプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4 以上の評価を受ける。これは、専門の知識・スキルを駆使し、問題発見・解決を牽引することができるレベルであり、下位レベルの育成ができるレベルである。上位到達レベル（概して 80 点～90 点）</p>							
到達目標	最低到達目標							
	<p>「PBL プロジェクト説明書」に記載されたプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準でおおむね 2 以上の評価を受ける。これは、専門の知識・スキルを駆使し、問題発見・解決ができるレベルである。最低到達レベル（概して 60 点～70 点）</p>							
授業の形態	形態		実施	特徴・留意点				
	対面授業	録画・対面混合授業		－				
		講義（双方向）		－				
		実習・演習（個人）		－				
		実習・演習（グループ）		○	学生自ら時間・場所を決め、活動する。			
	サテライト開講授業		－					
その他		○	遠隔会議システムを利用した活動を行う場合がある。					
授業外の学習	<p>原則として、メンバとの協働作業等の授業活動を週に 9 時間以上、授業外活動を 9 時間以上、15 週間継続すること。授業外活動は、PBL 活動のために知識・スキルの事前学習、各メンバに割り当てられた課題の調査等を行う。</p>							
授業の内容	<p>以下に示す PBL 活動を行う。PBL 活動の内容詳細は「PBL プロジェクト説明書」でプロジェクトごとに示されている。</p>							
授業の計画	回数	内容				サテライト開講	対面録画	
	第 1 回	プロジェクトキックオフ プロジェクトの内容、進行、各メンバの役割等に関する議論を行う。				－	対面	
	第 2 回	PBL 活動の内容				－	対面	

	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 通常の業務では、単独で問題解決にあたることは稀で、通常は複数メンバからプロジェクトが構成される。本学 PBL では、これを反映し、5 名程度のメンバからプロジェクトを構成し、問題解決のために協働作業を行う。社会人学生が多数を占める本学では、構成メンバの年齢・職業・職位・経験等は様々で、20 代前半の社会人経験の無い学生、30 代の適度に経験を積んだ技術者、50 代の一流企業の部長級というメンバ構成等、通常の大学院では珍しいメンバ構成が実現すること多い。各 PBL は 3 名の教員が指導にあたる。 通常の業務プロジェクトは、成果はもちろんであるが、計画に従った進捗管理も要求される。本学 PBL では、メンバ及び指導教員と相談し、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。 1Q 及び 2Q の期間（10 月から 2 月）で 15 週間、週に 3 回（9 時間以上）の PBL メンバとの協働作業等の活動、教員報告等を行う。 月曜日に各自の活動等を週報（週間活動報告書）として提出する。 3Q と 4Q の各終了時に所定の SA（Self-Assessment）を提出する。 4Q の最後に開催される PBL プロジェクト成果発表会で、活動の成果を発表する。 	-	対面
	第4回		-	対面
	第5回		-	対面
	第6回		-	対面
	第7回		-	対面
	第8回		-	対面
	第9回		-	対面
	第10回		-	対面
	第11回		-	対面
	第12回		-	対面
	第13回		-	対面
	第14回		-	対面
	第15回		-	対面
	試験		PBL プロジェクト成果発表会 PBL プロジェクト活動の成果を発表する。	-
	成績評価	<p>PBL 型科目の成績は、3 名以上の教員で評価点を付け、すべての専任教員が参加する成績判定会議で成績評価を決定する。評価点は、PBL の「成果」及び「活動状況」を「質」及び「量」と、あらかじめ設定された到達目標に達成度による評価（コンピテンシー獲得度）から評価を行う。前者は PBL 活動の評価で、後者は獲得したコンピテンシーの評価である。</p> <p>前者 PBL 活動の評価は、活動状況の質と量、及び成果の質と量の 4 つの視点で評価項目を定め、100 点満点で評価する。また獲得したコンピテンシーの評価はあらかじめ設定された 7 つのコアコンピテンシーごとの 0~5 の評価基準に対し、基準の達成度により点数を付ける。活動の評価基準と重み、コンピテンシーの評価基準と重みは PBL ごとに設定する。</p> <p>評価基準と重み等、成績評価の詳細はプロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>		
教科書・教材	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
参考図書	プロジェクトごとに定める「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。			
獲得可能なコンピテンシー		獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎		
	継続的学修と研究の能力	◎		
	チーム活動	◎		
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	◎		
	ドキュメンテーション	◎		
	革新的概念・発想	◎		
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	◎		
	問題解決	◎		
	リーダーシップ・マネジメント	◎		
	ファシリテーション・調整	◎		

5.5 履修の手引 (抜粋)

平成27年度 産業技術大学院大学 学年暦

年	月	日	曜日	行事名	
27	4	1	水	春季休業期間 (～4月3日(金)まで)	
		4	土	入学式、ガイダンス	
		6	月	第1クォータ授業開始	
		6	月	履修申請期間【第1・2クォータ (～4月12日(日)まで)】	
	5	27	月	休業期間 (～5月6日(水)まで)	
		7	木	授業再開	
		12	金	第1クォータ終了	
		13	土	第2クォータ授業開始	
	6	13	土	履修申請期間【第2クォータ (～6月26日(金)まで)】	
		24	水	第1クォータ成績開示	
		7	20	月	海の日 ※授業実施
		10	月	第2クォータ終了	
	8	11	火	夏季休業期間 (～10月1日(木)まで)	
		20	木	第2クォータ成績開示 (PBL以外)	
		19	土	9月学位授与式	
	10	1	木	10月入学式、ガイダンス	
		2	金	第3クォータ授業開始	
		2	金	履修申請期間【第3・4クォータ (～10月8日(木)まで)】	
		12	月	体育の日 ※授業実施	
	12	24	土	高専祭 ※授業実施	
		1	火	第3クォータ終了	
		2	水	第4クォータ授業開始	
		2	水	履修申請期間【第4クォータ (～12月15日(火)まで)】	
28	5	土	創立記念日 ※授業実施		
	11	金	第3クォータ成績開示		
	23	水	冬季休業期間 (～1月3日(日)まで)		
	1	4	月	授業再開	
28	11	木	AiIT PBL プロジェクト成果発表会		
	11	木	第4クォータ終了		
	12	金	春季休業期間 (～4月初旬まで)		
	19	金	第4クォータ成績開示		
	3	19	土	学位授与式	

※日程が変更になる場合は、ポータル掲示板等でお知らせします。

＜各クォータの開講期間は以下のとおりです。＞

第1クォータ	4月6日(月)～6月12日(金) 【4月27日(月)～5月6日(水)を除く】
第2クォータ	6月13日(土)～8月10日(月) ※7/20(月・祝)授業実施
第3クォータ	10月2日(金)～12月1日(火) ※10/12(月・祝)授業実施
第4クォータ	12月2日(水)～2月11日(木) 【12月23日(水)～1月3日(日)を除く】

平成27年度 産業技術大学院大学 授業カレンダー

- 予備日は、補講を実施します。補講の日程は、決まり次第、ポータルサイトの掲示等でお知らせします。
- 白色は、授業期間を表します。
- 灰色は、休業日または休業期間を表します。

4月 2015年

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
						入学式
5	6	7	8	9	10	11
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
12	13	14	15	16	17	18
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
19	20	21	22	23	24	25
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
3	4	5	6	7	8	9
				1Q	1Q	1Q
10	11	12	13	14	15	16
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
17	18	19	20	21	22	23
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
24	25	26	27	28	29	30
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q	1Q
7	8	9	10	11	12	13
	1Q	1Q	1Q	予備日	予備日	2Q
14	15	16	17	18	19	20
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
21	22	23	24	25	26	27
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
28	29	30				
	2Q	2Q				

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
5	6	7	8	9	10	11
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
12	13	14	15	16	17	18
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
19	20	21	22	23	24	25
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q
26	27	28	29	30	31	
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
						2Q
2	3	4	5	6	7	8
	2Q	2Q	2Q	2Q	2Q	予備日
9	10	11	12	13	14	15
	予備日					
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
						予備日
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				30	30	30
				入学式	履修申請期間	
4	5	6	7	8	9	10
30	30	30	30	30	30	30
履修申請期間						
11	12	13	14	15	16	17
30	30	30	30	30	30	30
18	19	20	21	22	23	24
30	30	30	30	30	30	30
25	26	27	28	29	30	31
30	30	30	30	30	30	30

11月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
30	30	30	30	30	30	30
8	9	10	11	12	13	14
30	30	30	30	30	30	30
15	16	17	18	19	20	21
30	30	30	30	30	30	30
22	23	24	25	26	27	28
					予備日	予備日
29	30					

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				4Q	4Q	4Q
				履修申請期間		
6	7	8	9	10	11	12
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
履修申請期間						
13	14	15	16	17	18	19
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
履修申請期間						
20	21	22	23	24	25	26
4Q	4Q					
27	28	29	30	31		

1月 2018年						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
10	11	12	13	14	15	16
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
17	18	19	20	21	22	23
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
24	25	26	27	28	29	30
4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q	4Q
31						

2月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				4Q	4Q	4Q
7	8	9	10	11	12	13
4Q	予備日	予備日	2月18日(水)			
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

3月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1 はじめに

(1) 本学の使命・目的

産業技術大学院大学（以下「本学」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、高度な専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的として、専門知識及び体系的ノウハウを活用して新しい価値を創造し、産業振興に資する豊かな人間性・独創性と意欲・能力を備えた高度専門職人材を育成し、もって都民の生活と文化の向上及び発展に寄与することを使命としています。

インターネットの普及率が約80%に達し、IT社会が到来している今日、IT技術の中核を担うIT高度専門職技術者は数十万人規模で不足しているという試算があります。特に企業等での業務を的確に把握し、情報システムあるいはソリューションを戦略的に立案したり、最も適した設計を行ったり、開発プロジェクトを効率的に牽引したり、実際に専門知識を活かした実装・構築を効果的に行ったりすることができる技術者が不足しています。

また、ものづくりにおいては、新産業革命と呼ばれるハードとソフトが融合した新たなデジタルデザインプロセスへの革新が始まっています。そこでは、産業革命以降に職能として分化したデザインとエンジニアリングを再統合し、機能と感性を駆使したもののづくりができる技術者が求められます。さらに、大規模な産業プロセスから多品種少量生産製品に至るまで、ものづくりの個別プロセスで得られている普遍的な知見を統合したもののづくり技法に精通した技術者が求められています。

本学では、情報アーキテクチャ専攻と創造技術専攻の2つの専攻を設置し、情報システムの戦略・提案から実装・運用等の開発工程を実行したり、また俯瞰的に開発作業を牽引・管理したりできる「情報アーキテクト」と、技術マネジメント【MOT (management of technology)】能力と、デザインマネジメント【MOD (management of design)】能力をあわせ持ち、新たな価値を持つ製品を創造できる「ものづくりアーキテクト」を育成します。

(2) 専門職人材

本学が育成する専門職人材である「情報アーキテクト」及び「ものづくりアーキテクト」の定義は以下のとおりです。

①情報アーキテクト

情報アーキテクトとは、企業等が利活用しているコンピュータ、ネットワーク等から構成される仕組みの総称としての情報システム開発のための各種のIT高度専門職技術者で、共通キャリア・スキルフレームワークの「ストラテジスト」、「システムアーキテクト」、「プロジェクトマネージャ」、「テクニカルスペシャリスト」、「サービスマネージャ」及び、本学が独自に設定した「グローバルスペシャリスト」、「事業アーキテクト」に渡る範囲の人材像の職種の総称です。

②ものづくりアーキテクト

ものづくりアーキテクトとは、ものづくりの個別プロセスで得られている普遍的な知見を統合したもののづくり技法に精通し、技術マネジメント能力と、デザインマネジメント能力をあわせ持ち、新たな価値を持つ製品を創造することができる人材で、特に、感性設計力に秀でたデザイナー、機能設計力に秀でた開発設計技術者、感性と機能を統合して開発をマネジメントできる人材、ならびに感性と機能を統合して事業をプロデュース

できる人材（事業アーキテクト）を指しています。

※事業アーキテクト

情報アーキテクト及びものづくりアーキテクトを構成する人材像の一つで、「次世代成長領域での事業開発・事業改革のための高度人材」を指します。具体的には、イノベーションによって従来の仕組みを改革し、事業を再構築（開発・再生）し、当該成長分野の加速度的成長を効率的・効果的に実現できる高度人材や、単に新規事業を企画して終わりとするのではなく、事業戦略・マネジメント・IT技術と、成長分野に関する高いレベルの知識を中核として、実際に描いた戦略から事業の構築、運用までを実現できる人材の総称です。

(3) 学位の種類

本学で取得できる学位の種類は以下のとおりです。

①情報アーキテクチャ専攻

情報システム学修士（専門職）
(Master of Technology in Information Systems)

②創造技術専攻

創造技術修士（専門職）
(Master of Technology in Innovation for Design and Engineering)

(4) カリキュラムの特色等

①情報アーキテクチャ専攻

情報アーキテクチャ専攻では、情報アーキテクトに必要なとされる (A) 知識・スキルと (B) 業務遂行能力（コンピテンシー）を修得できるように、カリキュラムが設計されています。概ね、(A) は講義・演習型科目で学び、(B) は PBL 型科目で学びます。(A) 及び (B) の詳細は、p.14～16の別表1を参照してください。

情報アーキテクトが修得すべき知識・スキルは広範に渡るため、当専攻では、以下の7種類の人材像ごとに対応するコースと、(ア)特に学ぶべき知識・スキル、(イ)推奨科目、(ウ)配属PBLを設定しています。コースの名称は、履修した科目、履修PBL、成績に応じて、修了時に付与する人材像（ディプロマ・サプリメント等に記載）にも使います。各自の将来キャリアの目標にしたがって、コースを選択し、履修計画作成にあたって、履修科目及びPBLを決定するガイドにしてください。複数のコースを選択してもかまいません。また、成績評価等を考慮して目標を変更する場合はコースを適宜変更しても構いません。

- ・「ストラテジスト」コース
- ・「システムアーキテクト」コース
- ・「プロジェクトマネージャ」コース
- ・「テクニカルスペシャリスト」コース
- ・「サービスマネージャ」コース
- ・「グローバルスペシャリスト」コース
- ・「**事業アーキテクト**」コース

(ア) 特に学ぶべき知識・スキル

情報アーキテクトの人材像ごとに学ぶ知識・スキルはp.17の別表2のように設定されています。知識単位（中分類）は24項目ありますが、人材像ごとに特に5項目が選ばれています。例えば、「テクニカルスペシャリスト」であれば、以下の知識・スキルを特に修得することが望まれます。

- ・K-03-09《データベース》
- ・K-03-11《セキュリティ》
- ・K-03-10《ネットワーク》
- ・K-04-12《システム開発技術》
- ・K-04-13《ソフトウェア開発管理技術》

(イ) 推奨科目

人材像のコースごとに12科目前後の推奨科目が設定されています。これらの科目の履修により、(ア)に示す、特に学ぶべき知識・スキルが概ね修得できるように設計されています。履修した科目及び成績からどの程度の知識・スキルが獲得できたかの達成度は在学中継続的に確認できます。

ストラテジストコース

- ・データインテリジェンス特論
- ・ビッグデータ解析特論
- ・情報インタフェースデザイン特論
- ・IT特論
- ・CIO特論
- ・標準化と知財戦略
- ・情報システム特論2
- ・情報アーキテクチャ特論2
- ・サービスサイエンス特論
- ・情報ビジネス特別講義1
- ・情報ビジネス特別講義4
- ・eビジネス特論
- ・プロジェクト管理特論2
- ・情報ビジネス特別講義2
- ・情報ビジネス特別講義3

システムアーキテクトコース

- ・OSS特論
- ・システムプログラミング特論
- ・インターネットプラットフォーム特論
- ・ユビキタスプラットフォーム特論
- ・情報インタフェースデザイン特論
- ・IT特論
- ・標準化と知財戦略
- ・情報システム特論2
- ・情報アーキテクチャ特論3
- ・サービスサイエンス特論